

知恵ある者は知恵を出し、知恵なき者は汗を出せ

開倫塾

塾長 林 明夫

1ドルが105円台になり、日本の貿易黒字が過去最高になったとはいえ、そんなことにはおかまいなく、受験生には暑い夏が来る。

「夏を制する者は受験を制する」「受験生にとって夏休みが最も大切」と、よく言われる。「アリとキリギリス」の話ではないが、冬に備え、夏の暑いうちから十分準備をした者が、後になって成果が出ることが多いのは、受験勉強でも同じことだ。1年分のカレンダーを見れば、自分の入学したい学校の試験日はすぐにわかる（試験日は毎年、ほぼ同じなので）。入学試験の問題も、昔と違ってちょっとアンテナさえはりめぐらせば、すぐに手に入る。何点取れば合格するかも、大体はわかる。それを7月1日にやってみて、合格点に足りていれば「良かった」し、もし足りなければ不足している得点差を試験の日までにうめればよいことも分かりきっている。夏休みは部活動も終わり、一日中勉強できる日が40日続くので、「入学試験で最低取らなければならない点数と、現在の実力との差」をうめる絶好のチャンスである、という意味が「夏を制する者が入試を制する」という、格言にも似た表現となって現れる。

ただ大部分の受験生は、入試の問題を合格最低レベルまで解ける力を身につける第一歩が夏休みであることに気付かず、ただ何となく貴重な時間を過ごしてしまう。これは、はっきり言ってあまりにももったいないことだ。なぜ、こうも毎年、夏休みを無駄に過ごしてしまう受験生が多いかといえば、それは「自分自身の得点力と入試問題との差（ギャップ）」を正確に認識しないからだ。

では、どうしたらよいか。次のようにすればよい。

①自分の受けたい学校を明確にすること。

* 現実には、自分の受けたい学校が明らかになっていない受験生が非常に多い。高校生になると、この段階になっても進学か就職か決まっていな人も多い。食うや食わずから脱却して日本経済が世界で一番豊かになったため半年先の自分の進路を深く考えなくても済むためかもしれない。進学することは決まっても、4年制大学か2年制の短大か、専門または専修学校か決まっていな人も多い。

「一体、自分は何者なのか」から始まって、「自分はどうのような人生を送りたいのか」「どのような職業に就きたいのか」、もっと具体的には「高校や中学を出てから何をしたいのか」という自分の人生の根本についての問いを頭の芯が痛くなるくらい考え抜いている人は少ない。日本社会始まって以来の豊かさのためからか、保護者もかなり精神的、金銭的に“ゆとり”があり子どもの好きな道を歩ませてあげたいと希望する人が多い。いろいろな人に相談は十分した上で、最終的には「自分の進学先は自分で決める」ことをまず考えるべきと思う。

②受けたい学校の実際の入試問題2、3年分を時間制限を守り、一学期の期末試験が終わった日にやってみる。正確に採点もしてみる。

* 受験生でありながら、ほとんどの人がこの作業をしていないことも現実の姿です。やることを思

いつかないのか現実の姿を見ることが怖いためなのか理由は分かりませんが、「いつかどうにかなるだろう」「入試直前になって入試問題をやれば十分」と考える人が本当に多い。受験勉強は単に理想と現実（ギャップ）をうめるものにすぎませんから、本格的な勉強のスタートする夏休みに入る2、3週間前に、ギャップを明らかにしておかねばなりません。

③ギャップをうめるためには、何をどうしたらよいか徹底的に考える。

* 一番良いことは、中学や高校や学習塾・予備校の各科目の担任の先生のところに、数年分の入試問題と採点済みの自分の解答用紙の二つをセットにして持っていき、試験日までのあと何ヶ月と何日間に何をどのように勉強すれば、この差が確実にうまるか、素直な気持ちで礼を尽くして聞きに行くことです。各科目の担任の先生は、一応その科目のプロで自分の担当科目については入試の問題にも精通しているハズですから、受たい学校の2、3年分の入試問題と7月1週にやって自己採点した解答用紙を持っていけば、試験日までの勉強方法を具体的に考え、教えて下さるものと確信します。自分で考えてもよいですが、自分はその学校の受験生としては1年目で初心者であることも忘れてはなりません。初心者が自分で考えると「妄想」が出るだけで、「人類初めての実験」となり失敗する確率が大です。自分の信頼している各科目の先生に自分のありのままの実力を見ていただき、試験日までの勉強方法についての指導を受けるのが一番です。

以上①～③ができれば合格したも同然です。「自分の未来を自分の力で切り開く」ために、強い意志をもって机に向かえばよいだけです。ただ、どうしてもその気になれない人は、無理に受験勉強をすることはおすすめできません。「無理」にやったものは「イヤイヤ」ですから、いくら長い時間机に向かっても頭に「スー」と入らず、従って「得点力」にはならないからです。かえってイライラがたまって、心が不安定になるもどです。ほかにやりたいことがあったら、気のすむだけやってから受験勉強すればよいと思います。また、どうしても勉強になじめなければ、ほかの道を歩むことをおすすめします。

ただ、高校入試や大学入試の問題は世の中に出て役立つことばかりですので、やっておいて損はありません。英語が読めて書けて聞けるようになり、現代の著名な文章からはじまり、論理的な思考能力を身につけると同時に学べ、日本と世界の地理と歴史と政治、経済、社会、ひいては国際関係論の基礎までかなり正確に学ぶことができ、生物、地学、物理、化学の初歩をこれまた、かなりキッチリと身につけることができるのが受験勉強でもあるからです。今まで中学3年間、あるいは高校3年間やってきたことで、不確かであいまいであった知識を、テストで点が取れるレベルにまで身につけるのが受験勉強であるといえます。

その意味で、受験勉強を決して「被害者意識」ですることなく、「今までの勉強の総まとめをし、この先、学びたい学校での勉強の準備をするために行うのだ」と、とらえてください。受験勉強の中にも、ぜひ積極的な意味を見いだし、暑い夏を勉強一色で過ごしていただくことを希望します。一生に1～2度、思い切り勉強するのもよい思い出になります。友達と励まし合いながら、この夏、力をつけて下さい。

ファイト！です。